

第 34 回日本生活科・総合的学習教育学会全国大会（山形市：6 月 28 日・29 日）

米津・馬居 自由研究個別（連動）発表

発表 1：米津英朗：富士宮市立黒田小学校（校長）、静岡県立大学非常勤講師（教職必修専門総合）

【発表題目】

静岡県大教職専門「総合」受講者に学ぶ探究活動の可能性の豊かさ

—生活科・総合の原点が問う公教育（公立学校）再構築の道筋（1）—

【発表要旨】 小学校生活科の理念を実践化した大学の授業がこれまでにあったか。生活科誕生に貢献した馬居は次の 3 点に拘って大学の授業を生活科化した。①環境整備（教師一人で指導しない、教科書を使わない、机椅子の配置を学びに応じて変化させる、時間割を工夫する）②引き出す指導③学びの価値付け。学生が前のめりになって探究活動に取り組む姿を目の当たりにした。小学校校長が学んだ探究活動の可能性を学生の言葉とともに発表する。

発表 2：馬居政幸：静岡大学名誉教授、前静岡県立大学非常勤講師（教職必修専門総合）

【発表題目】

現代的課題の探究活動の適否と可否は社会事象の多様性、多元性、可変性への注視度に

—生活科・総合の原点が問う公教育（公立学校）再構築の道筋（2）—

【発表要旨】 総合の課題は「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」との小中高学習指導要領共通記述に集約される。ならば小中高の学習・探究単元構成の適否と可否は現代社会の三種の特性（多様性、多元性、可変性）への理解度と表現力で評価可能、との仮説の下、静岡県大での実証活動に挑んだ。その活動記録＝LINE 履歴と探究成果＝チーム別 PPT への生活科参与観察と社会問題調査で得た知見による分析結果を報告する。

日本子ども社会学会第 31 回大会（盛岡市：6 月 7 日・8 日）

角替・馬居 自由研究共同発表

【発表題目】

「学校教育において外国ルーツの子どもはなぜ周縁化されるのか

—DEI+B が問う公教育（公立校）再構築の道筋（その 1）—

【発表概要】 グローバル化を背景として、日本の学校に学ぶ外国ルーツの子どもがますます増加しつつある。外国ルーツの子どもたちの日々の学習の実態を見ると、かれらが日本社会において教育達成を図ることがいかに困難であるかということが分かる。

一方で現代日本の公教育においては、学習指導要領等においても個別最適化が謳われ、コロナ化を機に「一人一台端末」が普及するなど、一定の日本語リテラシーを大前提としたままの個別化の流れが加速している。そのような中であって、外国ルーツの子どもの抱える困難はなかなか解消しないどころか、ますます周縁化しているようにも見受けられる。

外国ルーツの子どもが抱える困難はかれら固有のものではなく、所謂「マイノリティー」とされる人々の周縁化の一端と考えられる。本報告では、こうした周縁化が生じる日本の学級集団のあり方や教育課程や授業構成に組み込まれた仕組みを明らかにし、DEI&B の概念を援用しつつ、今後日本の公教育がより開かれたものとなるための道筋の提示を試みる。

参考資料等

生活科・総合学会の米津・馬居連動発表については下記研究報告No.103 の第5章を参照いただきたい。

『現代の教育課題を読み解く』研究報告No.103

第5章「総合的な学習・探究の時間」が挑む公教育再構築の課題と可能性（43～60 頁）

—静岡県立大学教職専門科目受講学生の活動に学ぶ—

子ども社会学会の角替・馬居共同発表については上記研究報告の第4章を参照いただきたい。

第4章 コロナ危機と1人1台PCが問う日本の公教育の優位性と脆弱性（23～42 頁）

加えて、角替と馬居が上発要旨検討の基礎資料として個別に作成した要旨案を参照いただきたい。

【発表概要案】角替（前半：主題）

角替案：グローバル化を背景として、日本の学校に学ぶ外国ルーツの子どもがますます増加しつつある。外国ルーツの子どもたちの日々の学習の実態を見ると、かれらが日本社会において教育達成を図ることがいかに困難であるかということが分かる。

一方で現代日本の公教育においては、学習指導要領等においても個別最適化が謳われ、コロナ化を機に「一人一台端末」が普及するなど、一定の日本語リテラシーを大前提としたままの個別化の流れが加速している。そのような中であって、外国ルーツの子どもの抱える困難はなかなか解消しないどころか、ますます周縁化しているようにも見受けられる。

本報告では、外国ルーツの子どもの学びの実態を明らかにしつつ、かれらが日本の公教育の中でどう位置付けられ、今後どのような方策が必要とされるのかを検討しようとするものである。

.....

馬居（後半：副題）

馬居：外国ルーツの子どもの抱える困難は、マイノリティー（性差、障がい、低学力、貧困、異文化⇒異質とされる行動と発言）とみなされる人たちの周縁化（同化を装う排除の潜在化）と同根の事象と理解する。その証左として、日本の学級集団の在り方や教育課程（授業構成）に組み込まれた排除（周縁化システム）の構造を開示し、DEI&B（ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン、ビロンギング）の概念を援用し、組み替えへ道筋（strategy 戦略と tactics 戦術）の提示を試みる。